

## 口は健康のもと Vol.149

### 超高齢社会のインプラント治療

#### 健康長寿に大きな期待

昨年の敬老の日に際して、総務省から「平成26年の65歳以上の高齢者は前年に比べ111万人増の3,296万人だった。総人口に占める割合は0.9ポイント増の25.9%で、ほぼ4人に1人の計算となり、人数、割合とも過去最高を更新した」という報告がありました。65歳以上の高齢者の総人口に占める割合が21%を超えると「超高齢社会」と呼ばれますが、本邦は2007年にその超高齢社会へ突入し、年々その傾向が強まっています。

この四半世紀で日本人の平均寿命は男女ともに5年ほど伸び、文字通り「人生は90年」という時代となりつつあります。この長寿を存分に生き抜いていくために、健康は欠かせませんし、その源となるのはバランスのとれた食事と適度な運動であると考えられます。

一方、8020運動などの甲斐もあり、日本人の一人平均喪失歯数は各年代で減少の傾向にあります。ほぼ四半世紀前の60歳に現在の70歳が匹敵し、歯の本数では10歳の若返りが実現していると考えられます。そして、90歳までの健康長寿を前提とした場合、人工的に歯を回復する方法のひとつとしてインプラント治療には大きな効果が期待できます。（次回に続く）



奥羽大学歯学部附属病院  
総合歯科 教授 関根 秀志